# 第３学年　音楽科　学習指導案

**１　題材名**　郷土の音楽に親しもう
教材：△△甚句

**２　題材の目標**

○　△△甚句の曲想と音楽の構造や背景との関わりを理解するとともに，△△甚句を表現するための歌い方を身に付ける。［知識及び技能］

○　△△甚句の音色，リズム，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，自分の声の特徴を生かした△△甚句にふさわしい歌い方を創意工夫する。［思考力・判断力・表現力等］

○　△△甚句と△△の人々の暮らし，地域の風土，文化や歴史との関わりに関心をもち，自分の声で△△甚句を歌うことに主体的・協働的に取り組むことで，自分にとっての郷土の音楽を歌う意味や価値を見いだす。［学びに向かう力，人間性等］

**３　題材の評価規準**

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ○　△△甚句の曲想と音楽の構造や背景，歌詞の内容との関わりを理解している。<br>（表現・鑑賞）<br>○　創意工夫を生かした表現で△△甚句を表現するために必要な歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）の技能を身に付けて歌っている。<br>（表現） | ○　△△甚句の音色，リズム，旋律，を知覚し，これらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。<br>（表現・鑑賞）<br>○　自分の声の特徴（音色・音高）を生かし，△△甚句にふさわしい音楽表現としてどのような歌い方にするかついて思いや意図をもっている。<br>（表現）<br>○　△△甚句を歌う意味や価値について考え，伝統的な声や歌い方の特徴やよさを味わって聴いている。<br>（鑑賞） | ○　△△甚句の歌唱表現の特徴と，自分の声を生かした歌い方に関心をもち，楽しみながら主体的・協働的に△△甚句を歌う学習活動に取り組もうとしている。<br>（表現）<br>○　△△甚句と△△の人々の生活との関わりに関心をもち，自分の歌い方で楽しみながら主体的・協働的に自分にとっての郷土の音楽を歌う意味や価値を見いだす学習活動に取り組もうとしている。<br>（鑑賞） |

## ４　題材と指導の構想（研究主題とのかかわり）

新潟市中学校教育研究会研究主題
「感性を働かせ，仲間と共に音楽にかかわり続ける生徒の育成」

本題材はこれを受けて授業を行う。

＜主題設定の理由＞

生徒は，思いや意図をもって表現を追求したり，感じ取ったことを基に音楽のよさを見いだしたりする活動を通して，主体的に音楽に親しんでいる。また，自分の思いや感じ取ったことを互いに交流し合うことを通して，仲間と共に音楽のもつよさを明らかにしようとしている。

これまでの音楽科の実践を基盤に，感性を働かせて主体的に音楽にかかわる活動を通して，曲想，音楽の構造や仕組み，音楽の背景などを関わらせて，音楽のもつよさや価値を明らかにしていく生徒を育成したいという願いから，この主題を設定した。

### （１）題材と生徒

生徒はこれまでの音楽の授業で，合唱曲や日本歌曲を取り扱った学習活動に取り組むことで，どのような音色や発声で歌えばいいのか，またどのような歌唱表現の工夫が曲にふさわしいのか，ということを考え，追求することができた。しかし，これらの学習で「歌う」ということは，声の音色を統一したり，発声方法や強弱のつけ方などを仲間と同じ歌い方になるよう合わせたりすることを意識させるため，一人一人の声よりも全体の声を重要視してきた。生徒は，同じ歌い方をして声を重なり合わせることで一体感を味わうことができる反面，授業者に同じ歌い方ができていないことを指摘されたり，どうすれば合わせられるのかを考えたりすることで，声を出すことに遠慮してしまうことが課題であった。

民謡については，１年時に「日本の民謡と芸能」の鑑賞で複数の民謡を聴き比べ，その特徴をとらえる学習，２年時に「こきりこ節を歌おう」で声の出し方や産字，こぶしなどの歌い方について知る学習を行ってきた。しかし，ここでも模範となる演奏と同じ歌い方になることを重視して課題を追求してしまい，全員が同じ歌い方となり，思うように声を出して歌うことができなかった。そのため，あまりなじみのない民謡を歌うことは難しいものだという印象だけが残ってしまった。

殆どの生徒は毎年，かめだ祭りの△△甚句流しに踊り手として参加をしている。郷土の音楽である△△甚句に毎年ふれる機会があるが，実際に歌う経験はしていない。事前のアンケートで，９７％の生徒が「△△甚句の歌い手のように歌えないと思う」，「△△甚句の歌い手のような声の出し方に抵抗感がある」と回答している。

△△甚句は樽太鼓や笛に合わせて４０以上あるとされる歌詞を次々と歌っていく。複数人で歌い方を合わせて歌うものではなく，歌い手が代わる代わる歌っていく。そして，歌い手によって歌い方がそれぞれ異なる。そのため，自分の声の特徴（音色・音高）を生かして自分の歌い方で思い切り歌えるよさがある。また，△△甚句の歌詞の内容にある，△△の人々の暮らし，地域の風土，文化や歴史との関わりから，自分にとっての郷土の音楽を歌う意味や価値を見いだすことができる題材である。

**（２）指導の構想**

△△甚句は，複数人で歌うものではなく，歌い手によって歌い方が異なるということに着目させたい。これまで行ってきた授業のように，統一された歌い方をして声が重なり合わせるのではなく，自分の声の特徴（音色・音高）を生かして，思い切り声を出す歌い方で歌わせたい。そして，他の人はと歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）が異なる△△甚句のよさに気付かせたい。そのために次の４つの手だてをとる。

**①　ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ（以降ＧＴ）の話や実際の歌い方を聴く活動を組織する。**

△△甚句の歌詞に込められた意味や思いはどのようなものなのか，そして歌い手はどのような思いで△△甚句を歌っているのかを，ＧＴから直接話を伺い，△△甚句を歌うために必要な歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）を意識して歌っているのではなく，自分の気持ちや心情を込めるからこのような歌い方になるということを知るために行う。

ＧＴは，中学区に在住で△△民謡協会みすず会の藤井久氏に依頼をする。直接，△△甚句の歌詞に込められた意味や思いについて伺ったり，歌い手に思いや意図があると，どんな歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）で歌うのかを，ＧＴの実際の歌い方を聴いたりすることで，思いや意図をもって歌うことの重要性を気付かせたい。

**②　自分の声の特徴をとらえる活動を組織する。**

必ずしも同じ音高で歌うのでなく，自分の声の特徴（音色・音高）を生かして，思い切り声を出して△△甚句が歌えるようにするために行う。

△△甚句は高い音域を地声で発声しなければならないが，自分の声がこの音域に合っていないためにうまく声を出せない生徒がいたり，男声と女声によっても声の出しやすさが異なったりする。自分の声について考えたり，相手にはどんな声として聞こえているのか伝え合ったりして，自分の声の特徴をとらえさせることで，一番出しやすい音色・音高で声を出して歌えるようにさせたい。そして，自分の声の特徴（音色・音高）を生かし，一人一人が△△甚句にふさわしい歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）で歌い，自分の歌い方で△△甚句を思い切り歌えるという実感がもてるようになる。

**③　ＧＴと別の歌い手の２つの歌い方，３つの地区の歌い方を聴き比べる活動を組織する。**

歌い手として思いや意図をもつことの重要性と，歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）がそれぞれ異なり，そこによさがあることに気付かせるために行う。

△△甚句は決められた正しい歌い方があるわけではない。歌い手が思いや意図もって歌うことによって生み出される，それぞれの歌い方を比較させることで，自分の気持ちや心情をどんな歌い方で歌うのかを考えさせたい。

**④　３人グループで歌い手，樽太鼓，合いの手（踊り）の役割をもたせた活動を組織する。**

樽太鼓のリズムに合わせて歌うことで，気持ちを高揚させ，声を出しやすくし，合いの手（踊り）が伴うことで，歌と身体の動きが一体となった，祭りの中で歌われる△△甚句に近い状態で歌わせるために行う。

全体で一斉に練習を行うと，生徒はこれまでの統一された歌い方を目指してしまう。役割を交代しながら歌っていくことで，自分の声の特徴を生かし，自分の歌い方で△△甚句を歌うことをことができる。そして，一人一人が役割をもち練習を行うことで，歌い手，樽太鼓，合いの手（踊り）が一体となった祭りの中で歌われる△△甚句を実感させながら思い切り歌わせることができる。

**（３）研究主題との関わり**

本題材では，合唱のように統一された歌い方をして声を重なり合わせることを追求するのではなく，自分の声の特徴（音色・音高）を生かして，一人一人が異なる歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）で歌い，それぞれの声や歌い方の特徴を知覚し，その雰囲気を感受し，△△甚句の音楽的な特質や雰囲気をとらえていくときに，生徒の感性が働くと考える。

また，演奏の役割をもたせた３人グループで協働的に学習に取り組む場面では，同じ一つの音楽表現を練り上げながら仲間とかかわるのではなく，樽太鼓，歌い手，合いの手（踊り）の役割が一体となり△△甚句を歌い上げていくなかで，仲間とかかわりながら互いの歌い方のよさに気付かせ共感させたい。また，一人一人が自分の歌い方で△△甚句の音楽表現を追求していくことで，相手のよさに気付いたり，自分にも生かそうとしたりする協働的な学習が行えると考える。

**５　題材の指導計画（全４時間）**

第１次　ＧＴの実際の演奏から，歌い手の思いや意図を知り，△△甚句の特質や雰囲気をとらえて歌う。（１時間）

第２次　自分の歌い方で△△甚句を歌う。（２時間）

・　△△甚句を歌うために必要な歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）を身に付け，自分の声の特徴（音色・音高）をとらえる。

・　△△甚句にふさわしい音楽表現としてどのような歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）にするかついて思いや意図をもち，自分の声の特徴（音色・音高）を生かしながら３人グループで歌う練習をする。

第３次　自分にとって△△甚句を歌う意味や価値を考える。（１時間）

| 次 | 時 | ○学習のねらい・主な活動内容 | 評価 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 知 | 思 | 主 | 評価規準 |
| 1 | 1 | ［技能習得型］<br>学習課題<br>**「ＧＴは△△甚句をどのように歌っているのだろうか。」**<br>○　ＧＴの実際の演奏から，歌い手の思いや意図があることを知り，△△甚句の音色，リズム，旋律が生み出す特質や雰囲気を感じ取り，△△甚句を歌うことができる。<br>・　かめだ祭りの映像から△△甚句の演奏形態を確認する。<br>・　ＧＴから，樽太鼓のリズムと歌い手の旋律を実際に演奏してもらい，樽太鼓と歌の１・２番をまねして練習する。<br>・　ＧＴの歌い方に地声・声の張り上げ・こぶしがあることに気付く。<br>・　ＧＴから，△△甚句の歌詞に込められた意味や思い，またＧＴはどんな思いで歌っているのか話を伺う。<br>まとめ<br>**「自分の気持ちや心情を込めて歌っているから，地声で声を張り上げたり，こぶしをつけたりした歌い方になる。」**<br>・　ＧＴのように地声・声の張り上げ・こぶしをつけて歌ってみる。<br>・　上手く歌えないところは，ＧＴから実際に歌ってもら | ○ | ○ | | ○　△△甚句の音色，リズム，旋律，を知覚し，これらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。<br>［思考・判断・表現］<br><br>○　△△甚句の曲想と音楽の構造や背景，歌詞の内容と |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | いながら練習をする。<br>**振り返り**　**「ＧＴのように歌うことができましたか。」** | | | | の関わりを理解している。<br>［知識・技能］ |
| 2 | 2 | ［単元型］１時間目<br>**学習課題**<br>**「自分の気持ちや心情を込めるためには，どんな歌い方にすればいいだろうか。」**<br>○　△△甚句を歌うために必要な（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）を身に付けて歌うことができる。<br>・　ＧＴの歌う△△甚句の録音と，別の歌い手が歌う△△甚句の２つの録音を聴き比べ，地声・声の張り上げ・こぶしのつけ方にもそれぞれの歌い方があり，歌う声の高さも違うことに気付く。<br>・　それぞれの歌い方をまねして１・２番の歌詞で歌う。<br>・　△△甚句の歌詞を一つ選び，自分のどんな気持ちや心情を込めて歌いたいのか考える。<br>・　自分の声の特徴について考えたり，相手にはどんな声として聴こえているのか伝え合ったりして，自分の声の特徴をとらえる。<br>**まとめ**<br>**「地声→のびのある声，ふるえている細い声。**<br>**声の張り上げ方→ゆるやかな張り上げ，一気に張り上げ。**<br>**こぶしのつけ方→音の揺れが瞬間的で少ないこぶし，音の揺れが多いこぶし。」** | ○ | | | ○　創意工夫を生かした表現で△△甚句を表現するために必要な歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）の技能を身に付けて歌っている。［知識・技能］ |
| | 3（本時） | ［単元型］２時間目<br>**活動のめあて**<br>**「自分の歌い方で△△甚句を歌おう。」**<br>○　自分の声の特徴（音色・音高）を生かし，△△甚句にふさわしい歌唱表現としてどのような歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）にするかについて思いや意図をもって歌うことができる。<br>・　３つの地区で歌われていた△△甚句のそれぞれの歌い方の特徴を聴き，さらに様々な歌い方があることを知る。<br>・　自分の気持ちや心情を込めるためには，どの声の高さで歌い，歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）をどのようにすればいいか，いろいろな歌詞で樽太鼓に合わせながら練習をする。<br>・　３人グループで役割（歌い手，樽太鼓，合いの手（踊り））を決めて，歌い手の気持ちや心情が伝わる歌い方になっているか確認しながら練習をする。<br>・　数名を歌い手として，全員で△△甚句を踊る。<br>**振り返り**<br>**「○　あなたは，自分の気持ちや心情を込めた歌い方をすることができましたか。**<br>**○　他の人の歌い方を聴いて，自分とは違う歌い方にどんなよさがありましたか。」** | | ○ | ○ | ○　自分の声の特徴（音色・音高）を生かし，△△甚句にふさわしい音楽表現としてどのような歌い方にするかついて思いや意図を持っている。<br>［思考・判断・表現］<br>○　△△甚句の歌唱表現の特徴と，自分の声を生かした歌い方に関心をもち，楽しみながら主体的・協働的に△△甚句を歌う学習活動に取り組もうとしている。<br>［主体的に学習に取り組む態度］ |
| 3 | 4 | ［問題解決型］<br>**学習課題** | | ○ | ○ | ○　△△甚句を歌う意味や価値につい |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | **「なぜ，△△の人々は△△甚句を歌い継いでいくのだろうか。」**<br>○　自分たちが歌った合唱と△△甚句を比較して特徴を聴き比べることで，音楽表現の多様性に気づき，△△甚句を歌う意味や価値に自分の考えをもつことができる。<br>・　これまで取り組んできた自分たちの合唱と△△甚句を比較しながら鑑賞する。<br>・　それぞれどんなところが違うのか，またなぜ違うのか考える。<br>・　どちらにも共通するよさについて考える。<br>・　合唱において歌うということ，△△甚句において歌うということの批評文を書く。<br>まとめ<br>**「歌詞に△△の文化や歴史が詰め込まれている。それを歌にすることで，一人一人の思いや願いを表現することができる。」** | | | | て考え，伝統的な声や歌い方の特徴やよさを味わって聴いている。<br>［思考・判断・表現］<br>○　△△甚句と△△の人々の生活との関わりに関心をもち，自分の歌い方で楽しみながら主体的・協働的に自分にとって郷土の音楽を歌う意味や価値を見いだす学習活動に取り組もうとしている。［主体的に学習に取り組む態度］ |

## ６　本時の計画（３時間目／全４時間　）

### （１）本時のねらい

役割を決めて，自分の気持ちや心情が相手に伝わっているのか確認しながら練習する活動を通して，自分の声の特徴を生かし，どのような地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方をするかついて思いや意図をもって歌うことができる。

### （２）本時の構想

前時までに，△△甚句の音色，リズム，旋律が生み出す特徴や雰囲気を感じ取り，統一された歌い方で声を重ね合わせる歌い方ではないことに気付いている。また，ＧＴから話を伺ったり，演奏を聴いたりすることで，歌い手が思いや意図をもって歌っていることについて知っている。そして，自分の声の特徴について考えたり，相手にはどんな声として聞こえているのか伝え合ったりして，自分の声の特徴をとらえている。

本時では，単元型の２時間目である。学習のめあてを「自分の歌い方で△△甚句を歌おう。」とし，自分の声の特徴（音色・音高）を生かし，一人一人が△△甚句にふさわしい歌い方（地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方）にするにはどのようにするのか思いや意図をもち，自分の歌い方で△△甚句を思い切り歌えるという実感がもてるようにさせる。そのために次の手だてを講じる。

【手だて】

３つの地区で歌われていた△△甚句のそれぞれの歌い方の特徴の違いを聴き取らせる。そして，一人一人に役割をもたせ，歌い手，樽太鼓，合いの手（踊り）が一体となった祭りの中で歌われる△△甚句に近い状態で歌う活動を組織する。

### （３）本時の展開

「問題解決型」・「技能習得型」・「単元型」

| 学習活動 | 教師の働きかけと<br>予想される生徒の反応 | ■評価　・留意点 |
|---|---|---|
| 導入 | | |

| | | |
|---|---|---|
| ○　前時に練習した１，２番の歌詞で△△甚句の歌い方を確認する活動<br>（５分） | ○　前の時間を思い出して１・２番の歌詞で△△甚句を歌おう。<br>○　前の時間にまとめた歌い方を確認しよう。<br>**＜前時の学習課題＞**<br>自分の気持ちや心情を込めた歌い方にするには，どんな歌い方の工夫があるのだろうか。<br>**＜前時のまとめ＞**<br>地声→響かせる声、叫んでいる声，細い声。<br>声の張り上げ方→ゆるやかな張り上げ，急な張り上げ。<br>こぶしのつけ方→音の揺れが多い，音の揺れが瞬間的で少な<br>○　まとめをもとに歌ってみよう。 | ・　樽太鼓のリズムに合わせて歌わせる。<br>・　前時のまとめの地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方を提示する。<br>・　地声・声の張士あげ方・こぶしのつけ方を実際に歌わせながら確認をする。 |
| 展開<br>○　３つの地区で歌われていた△△甚句を聴き比べる活動<br>（５分） | **＜活動のめあて＞**<br>自分の歌い方で△△甚句を歌おう。<br>○　３つの地区で歌われていた△△甚句を，どんな歌い方の違いがあるのか聴き比べよう。<br>・　声を勢いよく張り上げると気持ちが込められていることが伝わる。<br>・　こぶしをもっとつけて音を揺らさないと気持ちが伝わってこない。 | ・　歌い方がそれぞれ違ってもよいことを再度確認する。 |
| ○　樽太鼓のリズムに合わせて，声の高さ・地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方を試しながら歌う活動<br>（１０分） | ○　自分の気持ちや心情を込めるためには，どの声の高さで歌い，地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方をどのようにすればいいか，いろいろな歌詞で試しながら歌い練習をしよう。<br>・　自分はよく通る声だから，高い声で力強く声を張り上げて気持ちを込めよう。<br>・　自分の低い声を生かして，よく響く地声で，ゆるやかな張り上げ方で自分の心情を伝えたい。 | ・　自分の声の特徴について考えたことを再度振り返させる。<br>・　樽太鼓と笛のみの音源を流し，いろいろな歌詞で練習させる。 |
| ○　３人グループで役割を決めて，歌い手の気持ちや心情が伝わるか練習しながら確認する活動<br>（２０分） | ○　３人グループで役割（樽太鼓，歌い手，合いの手（踊り））を決めて，歌い手の気持ちや心情が伝わる歌い方になっているか確認しながら | ■　自分の声の特徴を生かし，地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方を |

| | | |
|---|---|---|
| | 練習をしよう。<br>・　低い声でゆるやかな声の張り上げ方で気持ちが込められている。<br>・　音の揺れが多いこぶしのつけ方になっていて，響く地声で歌っていて，心情がよく伝わってくる。<br>・　急な声の張り上げで歌うのであればもっと喉をつぶして細い地声で歌った方が，気持ちが伝わってくる。<br>・　こぶしの瞬間的な揺れを入れるなら，もっと腹を使って息を吐き出さないと音も揺れないし，気持ちも伝わらない。 | どのようにするかについて思いや意図をもって歌うことができる。<br>［思考・判断・表現］<br>・　どんな気持ちや心情を込めて歌うのかグループ内で伝え合ってから練習させる。 |
| 終末<br>○　数名を歌い手として全員で踊る活動<br>（５分）<br>○　振り返りをする活動<br>（５分） | ○　今日の学習を，次の２つについて振り返りましょう。<br>**＜振り返り＞**<br>○　あなたは，どんな気持ちや心情を込めて，どんな歌い方をすることができましたか。<br>○　他の人の歌い方を聴いて，自分とは違う歌い方にどんなよさがありましたか。<br>・　自分は△△で生まれ育ってきたという気持ちを込めて，こぶしで音をたくさん揺らして歌えた。<br>・　自分の声は高くよく通るので，力強く声を張った歌い方で，△△を大切にしたいという心情を歌った。<br>・　旋律の音が高くなったところでこぶしをたくさんかけると気持ちが込められた歌い方になった。<br>・　他の人は低い音で歌ったけれど，低い響きでも樽太鼓のリズムに合っていて気持ちが伝わってきた。 | ・　樽太鼓を数名，歌い手を数名指名して，祭りの中で歌われるように△△甚句を歌い，踊る場面にする。<br>■　自分の声の特徴を生かし，地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方をどのようにするかについて思いや意図を述べることができる。<br>［思考・判断・表現］ |

**（４）本時の評価**

○　自分の声の特徴を生かし，地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方をどのようにするかについて思いや意図をもって歌っている。［思考・判断・表現］

○　自分の声の特徴を生かし，地声・声の張り上げ方・こぶしのつけ方をどのようにするかについて思いや意図を述べることができる。［思考・判断・表現］